

筑豊高校に子育てサロンがオープン

10月3日、筑豊高校と地域子育て支援センター共催の「第1回直方市子育てサロン」が、筑豊高校にて開設されました。このサロンでは、筑豊高校の生徒と子育て支援センター職員が連携して、親子の交流の場づくりや、子育てに関する悩み相談などの子育て支援を行います。

この日は生活デザイン科3年生5人と、親子15組が参加。絵本の読み聞かせや手作りおもちゃでの遊びなどを通して、子どもたちと触れ合いました。市内に住む山本由美さん(41)は「同年代の子との交流もいけど、違う年代の人と接するのもいいですね」と、高校生と遊ぶ長男の実豊くん(2)を見守っていました。保育士になるのが夢だという同校3年生の飯野桜さん(17)は「子どもと遊んでいるときや本を読んであげているときに、かわいいなと思う。学んだことを実践できて嬉しい」と話しました。今後も月1回程度、不定期開催で継続していく予定です。



高校生のおねえさんに興味津々

直方歳時館で筑豊文庫の「食卓」を語るイベント開催

10月5日、直方歳時館で、「トークイベント『筑豊文庫の食卓』」が行われました。筑豊文庫とは、記録作家の故上野英信さんが廃屋の炭鉱住宅を買い取って鞍手町に開いた住居兼活動拠点です。炭鉱で働いた自分の経歴や、見聞きしたことを記録する拠点であり、人々が集まって自由に好きなことを話す場所でもありました。

このイベントは歳時館主催の「Cafe三太郎」の催しの一環で、古書店主で上野さんの長男の上野朱さん、画家の牧野伊三夫さん、東京大学大学院博士課程の川松あかりさんが「筑豊文庫の食卓」をテーマに、昭和の暮らしや筑豊の人々の人柄、筑豊文庫についてトークを展開しました。トークイベント後には「筑豊文庫の食卓」を楽しむ会」と題して、筑豊文庫の食卓で食べた料理を再現し、参加者は舌鼓を打って豊かな時間を過ごしました。



筑豊炭鉱の歴史をトークで振り返ります

園児たちが高アミノ酸米「ふくのこ」収穫体験

10月12日に、萬福寺さくら保育園の園児が、上頓野の水田で米粉用の稲の新品種「ふくのこ」の収穫体験をしました。「ふくのこ」は、製麺や菓子づくりに適した高アミノ酸米。市では、米農家の所得向上策の一環として、今年度から「ふくのこ」の生産と商品開発への取り組みを始めました。この日はJA直鞍職員や生産者、市長も参加し、皆で稲刈りに挑戦。園児は大人たちの手助けを受け、慣れない鎌で稲の根元を刈ったり、尻もちをついたりして悪戦苦闘しながらも「楽しい」「上手くできた」と収穫を楽しんでいました。

収穫した「ふくのこ」は、米粉に加工し、その米粉を使って、大きさ93・5センチ×53センチ、総重量約11キログラムの世界一大きなたい焼きを作ります。このたい焼きの大試食会が、11月4日の産業まつりで行われる予定です。



実りの秋に貴重な収穫体験

劇団シヨーマンシップによる『ないためかおに』上演会

10月9日と10日、上頓野小学校と中泉小学校で、福岡の劇団「シヨーマンシップ」による演劇公演が行われました。この催しは、子どもたちに本格的な演劇を体感してもらい、感性を養うために直方文化青少年協会が主催したものです。

演目は『ないためかおに』。絵本でもおなじみのこの作品は、人間と仲良くしたい赤鬼、それに協力する青鬼、村人たちの友情を描いた物語です。劇が始まると、児童らはすぐにその世界に引き込まれ、歌って踊ってリズムを取ったり、劇団員のコミカルな演技や表情に笑ったりと、時間を忘れて楽しんでいました。児童からは「おもしろかった」「赤おにのためを思って旅に出た青おにが、とても優しいと思った」などの感想が出ました。終演後は団員が教室に戻る児童を見送りながらハイタッチ。最後までサービス満点の上演会でした。



大人も泣ける深い物語

「さうじょうと安心」を暮らすために SOSネットワーク模擬訓練

10月21日、南校区の自治区公民館長や民生委員児童委員、各種団体からなる実行委員会と直方警察署が協力し、直方南小学校区でSOSネットワーク模擬訓練を行いました。高齢者が認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域の人たちと一緒に「声かけ」と「捜索」の訓練を実施しました。

声かけ訓練では、高齢者役の人が南校区内を歩き、声かけ役が各コースで10カ所ある声かけポイントに立ち「おはようございます」「どこに行かれますか」などと優しく声かけをしました。参加した小野一馬さん(91)は「私も高齢なので、声かけの大切さを改めて感じた」「ごろの声をかけを心がけた」と振り返りました。また、関係機関の一人である大野哲也さんは「いきなり声をかけると相手がいびつくりするので、身に着けているものや、行動、様子をよく見て、変だと思ったら優しく声をかけてください」と話しました。

捜索訓練では、行方不明者捜索メールの情報をもとに高齢者役の捜索を実施。また、今回初めてGPSシユーズの試験利用も取り入れました。GPS装置を靴底に埋め込んだシユーズを履いた対象者の居場所をインターネットで知ることができます。今回は、3分ごとに位置情報を取得し、地図上で対象者の居場所を確認して現地に向かいました。

参加者は対象者を発見・保護し、直方警察署に訓練通報。無事、南小学校で警察官による保護を受けました。直方警察署生活安全課防犯係の富田係長は「今回、早期に発見できたのが良かった。長期化すると事故や事件に巻き込まれる可能性が高くなります。実際のケースでは、積極的な110番通報をお願いします」と講評しました。



IT技術を駆使して捜索の効率化を図ります



びっくりさせないように優しく声かけします